

報 告 書 抄 録

ふりがな	せきのついせき							
書 名	関津遺跡Ⅲ							
シリーズ名	ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	37-4							
編著者名	藤崎高志・汐見眞・白崎泰子・吉川昌伸							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 財団法人滋賀県文化財保護協会							
所在地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732番2号							
発行年月	平成22年(2010年)3月							
所収遺跡	所在地	コード		北 緯	東 経	調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号					
せきのついせき 関津遺跡	しがけん 滋賀県 おおつし 大津市 せきのついちょうめ 関津一丁目	25201	316	34° 55' 55"	135° 55' 19"	28,348㎡	20040405 { 20070331	県営ほ場整備事業 (経営体育成基盤 整備事業)田上関 津地区工事
所収遺跡	種 類	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
関津遺跡	集落跡 官衙跡	縄文時代 弥生時代 飛鳥時代 奈良～平安時代 鎌倉時代 室町～江戸時代	落とし穴 竪穴建物・溝 竪穴建物・溝・流 路 道路・掘立柱建 物・井戸・流路・ 畠・鑄銅遺構 掘立柱建物・井 戸・土坑墓・土 坑・溝 溝・護岸施設	縄文土器・石器 弥生土器・石器 須恵器・土師器・ 砥石 土師器・須恵器・ 硯・墨書土器・緑 釉陶器・灰釉陶 器・製塩土器・土 馬・銚帯・瓦・銭 貨・木器・鉄滓 瓦器・土師器・東 播系須恵器・輸入 陶磁器・砥石・銭 貨・鉄滓 国産陶磁器・瓦質 土器・石臼・茶臼	8世紀中葉～9 世紀中葉の道路跡 は『続日本紀』に 記載された田原道 とみられる。また、 道路沿いの掘立柱 建物群は、出土遺 物に官衙的遺物を 多く含むことから、 官衙の可能性 が高く、近江国 庁・保良宮・田上 山作所・大石関な どと関連する施設 と考えられる。			
要 約	縄文時代から近世に至るまでの遺構・遺物を検出した。主な遺構は、縄文時代後期の落とし穴、弥生時代後期の竪穴建物、飛鳥時代の竪穴建物、奈良～平安時代の幅員18mの道路跡、掘立柱建物、鑄銅遺構、井戸、畠、鎌倉時代の掘立柱建物、井戸、土坑墓、畠、室町時代後期の溝である。遺物は、縄文時代後期のサヌカイトの石核、奈良～平安時代の須恵器の形象硯や円面硯、灰釉陶器の風字硯、土馬、製塩土器、樽、平安時代後期～鎌倉時代の搬入品である大和型の瓦器・羽釜、白磁を中心とする輸入陶磁器、室町時代は瓦質土器の風炉、天目茶碗、茶臼などの茶道具などが出土している。また、本遺跡は7～13世紀を主体とするが、周辺部分には、縄文～古墳時代、14～16世紀の遺集落の拡がりが見られる。							